

曰く、「高いクルマやブランド物を買うときはじっくり選ぶのに、金融商品に関しては良く調べずに買う日本人が多い」とおっしゃってました。

なかなか金融の世界はわかりにくく書いているために普通に初心者が資産運用をしようと思うとハードルが高く感じてしまうかもしれません。しかし今後は、日本人も各自でファイナンシャルリテラシー（金融の知識）は必須のものとなってくると思います。

そんなわけで今後も、できるだけわかりやすく書くことを念頭においてメルマガを発行していく予定です。

外国為替について。

外国為替市場が最近熱くなってますね。日本では円とドルの関係性のみたいへん大きく報道されていますが、実はパーツとの三角関係で見えていくと非常に面白いです。

タイとパーツは基本的に連動しやすくなっていましたが、06年後半から急激にパーツが上昇し始めました。

タイでは1ドル40パーツ前後での動きが通常でしたがどんどんパーツが高くなりまして2月末現在、1ドルは34パーツから35パーツとなっています。

タイの経済を見るにパーツが高いとタイの輸出産業は儲かりません。基本的にですが、円対パーツはUSドルの相場連動するために、USドルに対して円が下がれば自動的に円対パーツ相場も円が下がります。

06年後半のパーツの円対パーツの為替の高値は、円安ドル高になってドルが高いのと、パーツ対ドルの関係においてもパーツが高いダブルショックからです。

なので円/パーツの今後の為替を考えるためには、円/ドルとパーツ/ドルの両方の局面を考える必要があるかと思えます。

基本的にはタイ経済はこのところ好調なので、長期的に見ればパーツ高は止まらないのではないかと思います。ただ、今のドル/パーツでも1ドル=34パーツは急に上昇しすぎな気がします。ほんの一年前までは1ドル=40パーツの壁突破！の記事が良く出ていたので。

さてそれでは第8号に入りますね。どうぞ宜しくお願い致します。

□□No 1 タイ株初心者編です■ ■

タイの通信事業その2です。

前々回インターネット普及率や携帯電話所持率などについて書きましたが
今回は固定電話などに関して書きます。

もともとタイ国ではTOT（タイ電話公社）とCAT（タイ通信公団）の二つがありました。
TOTは主にタイ国内の固定電話事業、CATはタイからの国際電話事業を取り扱ってました。
1997年のWTOにおける基本電気通信交渉合意で外資にもその事業の門戸を開くことになりました。

2002年の省庁再編の際に設立されたMICT（情報通信技術省）が通信事業を
監督・振興する機関となりました。
ただし、独立機関としてNTC（国家電気通信委員会）が規制の緩和や新しい枠組みを
作っていく機関として設立されました。

TOTはお役所仕事なためになかなか固定電話の敷設、開設が進みませんでした。
そのために他事業者からの支援でTRUE社がバンコク近郊
（バンコク・ノンタブリー・サムットプラカーンなど）
が敷設事業などをBTO方式（民間が資金調達・建設後、所有権は
公共になるが一定期間は施設運営権を受けて資金回収するシステム）で引き受けています。

さらにTT&T社はバンコク首都圏以外の72件を担当しています。
（こちらの企業はJAS(ジャスミン・インターナショナル)とつながりが深いです。)

ただしタイでは地方の固定電話回線開設は遅々として進まず、逆に
携帯電話の普及のスピードが速くなり、携帯電話普及率の方が高くなりました。

管理人のコメント：
タイの固定電話は1回かけると3パーツで使い放題です。
これには来た当初びっくりしましたが、そもそも固定電話を使う機会がまったくございません。
携帯電話が楽だからです・・・。

来た当初だけインターネットするためにダイヤルアップで使ってたので
安く済みましたが、ADSLを開設しに行ってから固定電話はただあるだけ、
固定電話料金は月額130パーツ程度です。

しかし安いので請求書の支払いを忘れていたら、いきなり回線止められました（笑）
あわてて請求書を持って支払いに行きました。
それでも3ヶ月合計700円程度でした（笑）

3ヶ月滞納するほうもするほうですが、いい勉強になりました。
次回に続きます。

□□No2 タイ株上級者編です■ ■

過去のタイ株関連メルマガであまり触れられてなかったコーナーを作りました。

●● 009 TRUE です。○○

通信関連企業です。その昔日本ではNTT 民営化上場の際、かなり利益を得た方がいたらしいのですが、タイでも現在大きな通信企業がインフラ整備を進めています。

少しこの TRUE の説明の前にタイにも NTT のような会社が存在します。
それが TOT (タイ電話公社) です。

TOT は

タイ国の固定電話回線を管理・運営していて、
タイ国内および近隣の国際通信を担当する通信電話公社です。
古くからタイの全域に渡る固定電話通信を引き受けていました。
現在の固定電話は TOT 並びに TRUE で分かれていいます。タイ通信公社
(CAT) との共同民営化計画が、1995年からタイ政府が電気通信マスタープラン
策定後、政権交代などから何度も棚上げされてきました。
(つまり先送りです。)

TOT を99年に、CAT を98年後半に民営化すると決定されたものの、
その後見送られ続けています。
こちらもいずれ上場するでしょうが、
その際にも大規模な上場となるため期待されています。

TRUE に戻ります。

CP (チャルーン・ポーカパン) 財閥系の企業であり、
バンコク首都圏で固定電話 260 万回線を敷設・運営しています。
BTO 方式により 2017年度まで通信電話事業を TOT (タイ電話公社)
より委託されています。
2004年4月に社名変更して旧社名はテレコムアジアでした。

06年末現在、固定電話ではTOTとはライバル関係です。
ADSL事業ではCS-LOXINFO (CSL) とライバル関係、
携帯電話ではAIS (ADVANC)、DTAC (TAC) と契約数を争っている
関係です。

TURE グループは現在携帯電話の TrueMove トゥルムーブ (旧社名 TA オレンジ=携帯サービス業No3)、
有料テレビ最大手である UBC (社名変更して True Visions トゥルムービジョンズへ) などがあります。

トゥルー・コーポレーションのトゥルー・ムーブがいままで支払っていた通信回線使用料は、
携帯事業の許認可権を有している TOT (タイ電話公社) へ収めていました。

2006年11月、タイ国家通信委員会 (NTC) は通信市場競争の公平化のために、
この通信回線使用料を廃止して、新しく、IC インターコネクションシステム

(相互接続料方式)を導入すること発表しました。
このシステム導入を受けて、06年11月携帯通信No2のTACと同じく
No3のトゥルムーブはアクセスチャージ(通信回線使用料)支払い停止を決めました。
一方で、07年1月に入りTOTは回線使用料廃止に反対して、
一方的に新規契約者の接続遮断の強硬策に出ています。

その後中央行政裁判所はTOTに対し遮断の仮差し止めを命じました。
これによりTACやトゥルー側の訴えが認められた形となり、
トゥルーは回線使用料を払う必要がなくなり、今後利益が増大する予測となっています。

□□ No3 タイ国内ニュース編です■

タイ国内では2006年度の企業決算が続々と発表される中で業績が良かった企業が多く、
経済面では良い年であったもようです。

ところが

政治の面、治安の面、外資政策の面でまだまだ不安定な動向が続くもようで、
株価も680~690ポイントを推移した状態が続いています。

そしてパーツも高止まり感が続いていまして、2、3月は日本から数多くの旅行者が
来ていますが、パーツの高さに驚いている方もいるのではないのでしょうか。

そんな中でタイの経済成長率は5.0%を記録しました。

タイ経済ならびにタイの発展は基礎的な発表された統計の数字部分では非常に強く成長しています。
2006年度も確実に成長していました。

特に輸出は、輸出に不利とされるパーツ高にもかかわらず、
17パーセントの伸びを示しました。2007年も高い成長をすると予測されています。

一方、政治的な面やタイの環境・状況的な部分は

06年は政治的な混乱などで、弱含みの状態でした。

新政権樹立までの期間はとりあえずゆっくりと底値にあるような銘柄を探しつつ
上昇気配になりそうな時期に買いを増やしていく流れが良いかと思えます。

2007年度の1月14日からタイの証券会社でのインターネット取引の委託売買手数料が
最低手数料が従来の0.21%から0.15%に下げられました。2006年末現在
タイ国内の証券会社33社のうち26社がインターネット取引システムを提供しています。
これにより、タイ証券取引所でインターネットを通じた証券取引が売買高に占める比率が
2006年の6~7%から07年は10%以上に
成長すると予測されています。

(タイではまだ6~7%なのですね、アナログな注文がまだまだ90%を
超えるのですね。あと、SEAMICO証券でも0.15%の手数料
導入しているそうです。)

タイでも「おれおれ詐欺」が出てきたもようです。

>タイ国日本人会の告知より。

最近、タイ国日本人会の名前を騙り、会員や会員企業に関する情報を聞き出したり、入金依頼をする電話があったとの報告が、複数の会員から寄せられていますので、ご注意願います。これらの電話は、「タイ人と思われる人」から、「タイ語」でかけられているとのことです。

タイ語で電話してきて「あーおれおれ、日本人会だから入金しておいてよ。」(笑)
って言うんでしょうか？
ってみんなタイ語わかるんですかね？

すごい騙され方だと思って笑ってしまいました。

とりあえず日本に在住の方には掛かって来ないはずなので
御安心ください(笑)。

□□N o 4 追伸です■ ■

さて、わたくし事ながら、お知らせでございます。
4月15日日曜日東京都内「茅場町」においてタイ株の講演会を開催することになりました。

詳細はこちらになります。
<http://www.financialacademy.jp/seminar/1267.html>

思いがけず日本ファイナンシャルアカデミーさまよりオファーを頂きまして
今回講師をやらせて頂くことになりました。

もちろん参加者の皆様にはお金を払ってまで来て頂くので
かなり得した気分で帰って頂けるよう、教材や配布資料をたくさん持って臨む予定でございます。

最近タイ株も少しずつですが認知度が高まっていて非常に
自分としてはうれしいのですが
やはり実際取引してみたい体験談、非常に動きのあった2006年度のタイの経済の動き、
タイの生活を含めて、いままでの株式セミナーとは違った形式で
進めたいと思います。

このセミナーは、タイ株初心者の方、日本株には余り興味のない方、外国株デビューしてみたい方、
でも外国株って不安が多い方、タイに対して関心が高い方を対象にしております。

わたくしも始めた当初はまったくわかりませんでした、
いまではタイの上場企業がすらすら言えるようになってます。
3年間の知識を3時間で伝えられるようなセミナーにしていく予定です。

タイに住んでいる関係上、貴重な機会だと思いますので

